

粉末冶金

第425号

1

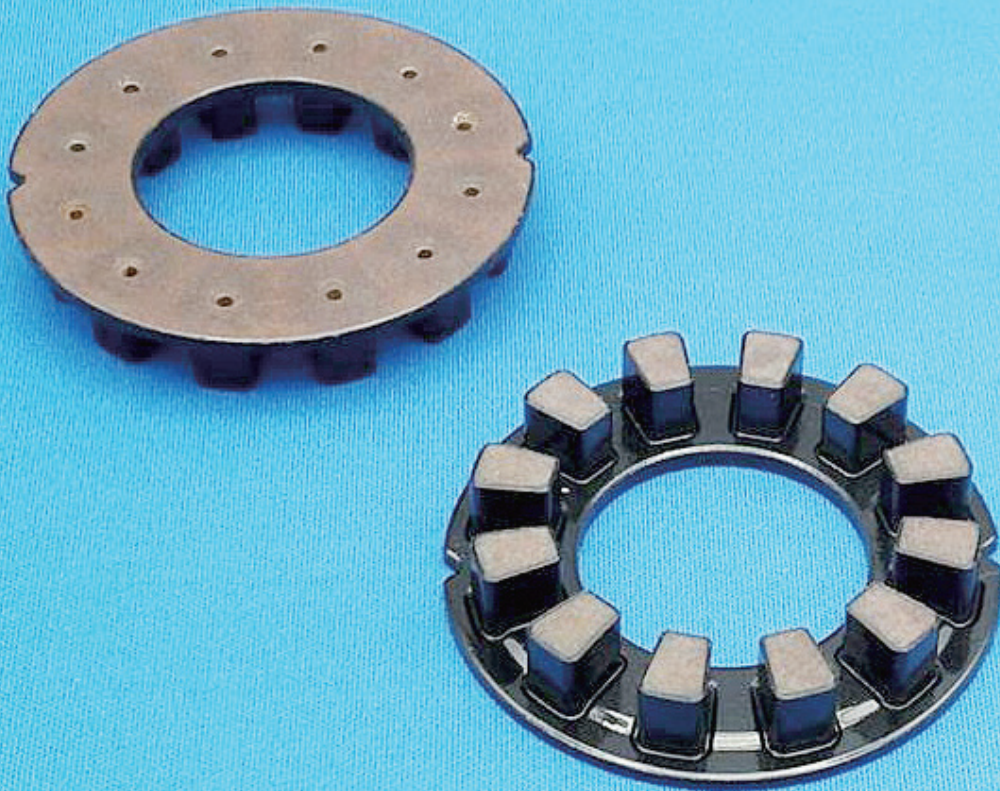


JPMA NEWS

2026

Make a better world with PM

2025 年度工業会賞
新製品賞・製法開発部門



モータの高性能化に貢献する薄肉・高絶縁耐圧塗装付き圧粉磁心の開発
住友電気工業株式会社

新年のご挨拶

2026 年の年頭にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年は工業会の活動に格段のご支援、ご協力を賜りまことにありがとうございました。事業計画で立案した活動を計画通りに推進することができました。会員の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。

○昨年の状況

日本の景気は、景況感や設備投資の底堅さに支えられて、弱めの先行きから脱しつつあり、緩やかな回復や持ち直しという傾向でした。一方、自動車については一部メーカーの認証不正／工場停止などで生産が落ち込んだ反動による増加は一部あったものの、全体としてはやや弱含みの状況となりました。

このような経済環境のもと、粉末冶金製品の主力顧客である国内自動車産業の 1 月から 10 月まで 10 ヶ月間の自動車累計生産台数（国内自動車 8 社公表値）は、669 万台と前年同期比で 3.2% 増、輸出は 327 万台と同 0.1% 増となりました。昨年の主要国での競争激化や、ローン審査の厳格化による販売減少が落ち着き、国内外の需要が徐々に回復する中で、生産・輸出ともに底堅い動きが見られました。

粉末冶金製品は、1 月から 10 月の累計生産重量（工業会統計値）は、54,925t と前年同期比 0.5% 増となりました。主力の機械部品のうち、輸送機械は前年同期比 0.9% 増、電気機械 同 4.8% 増となりました。産業機械は、建設機械、工作機械等の設備投資抑制が底を打ってきたものの同 3.6% 減。軸受は、同 2.3% 減の 3,183t となりました。

○工業会の活動

工業会活動の根幹を成す委員会活動、統計調査、表彰事業、広報事業、人材育成、規格制定・改定等は、委員の皆様のご尽力により着実に活動を推進しています。常設の各委員会においては、個別実施事項に加え、「自動車電動化、省エネ、LCA」への対応を含め、将来を見据えた課題やテーマについて調査や議論が行われています。焼結製品企業の Scope3（原料や金型製作、外注など）を含めた CO₂ 排出量を中心に議論してきました「新規プロジェクト委員会」は、今後は環境委員会に活動を引継ぐことになりました。

主要な行事としては、5 月「総会」（機械振興会館）、「工業会賞特別セッション」（京都大学）、7 月「第 13 回人材育成セミナー」（機械振興会館）、9 月「第 4 回粉末冶金基本講座」（Web）を実施しました。

次に政府、経済産業省関連では、米国関税対策や取引適正化等の各種政府施策等についてメールやホーム



日本粉末冶金工業会
会長 園田 修三

Greetings

ページ、委員会を通して周知を図りました。そのほか「自動車部品工業会と素形材団体の懇談会」において、適正取引に向けた意見交換及び当会としての要望提示を行いました。

海外事業は、10月APMA2025青島の期間中にAPMA（アジア粉末冶金連合）理事会（6カ国9団体）に出席し、今後の会長の決定や事務局についての議論を行うとともに、APMA2027（タイ）およびWorld PM2030（韓国）の準備が順調に行われていることの説明を受けました。

また、粉体粉末冶金協会と共に支援をしてきた、個社の壁を越えた取り組み「粉末冶金技術イノベーションプロジェクト」については、金属系材料研究開発センター（JRCM）に拠点を置き、産総研の尾崎リーダーを中心にNEDOの資金活用も含めた目標の策定や開発案の具体化などの検討が進められています。

○本年の活動方針

昨年10月、日本初の女性首相が誕生し、首相の持ち前の明るさ活発さ、そして政策への期待感から高支持率を維持しておりますが、台湾有事をめぐる発言による日中関係の悪化は予断を許しませんし、いまだに続く世界各地の紛争、またトランプ関税の行方等、日本経済は先行き不透明感が漂っています。

また、自動車産業は「100年に1度の変革期」にある中、自動車産業に大きく依存する粉末冶金業界も事業環境は刻々と変化していくと予想されます。しかし、この変化に怖気づくことなく、「変化こそチャンスだ」と捉えて、何事にも前向きに挑戦する姿勢を持ち続けたいと思います。

当会は、目先に捉われず長期的な視点で粉末冶金業界の発展に貢献するべく、各委員会活動等を一層活発に進めて、人材の獲得と育成に注力するとともに、国際競争力のある技術を生み出すことができるよう活動を充実させたいと考えています。そのためにも、もちろんコンプライアンス指針に則った上で、個社の壁を越えた取り組みを積極的に進め、ともに成長することのできる日本粉末冶金工業会を目指していきたく思います。会員各社様のご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様の益々のご発展を祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。

年頭所感

明けましておめでとうございます。令和 8 年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

経済産業省では、素形材関係者等の協力のもと、昨年 3 月に「素形材産業ビジョン」を 12 年ぶりに策定しました。このビジョンの目的は、「我が国のものづくり拠点としての機能の維持・強化」と、「素形材産業の稼ぐ力の強化」です。素形材産業は、新興国をはじめとする各国との競争激化、カーボンニュートラルの実現に向けた対応、デジタル化の進展、サプライチェーンの安全性確保、構造的な人材不足、賃上げの流れをサプライチェーン全体に広げる取引適正化の推進、自動車産業の電動化への対応など事業環境の変化に直面しています。このような変化に対応し、我が国の素形材産業の持続的な発展を目指すため、素形材産業ビジョンでは 7 つの論点（① GX、資源循環、② 経済安全保障、③ 取引適正化、④ DX、標準、⑤ 情報発信力、人材育成、⑥ 経営力、⑦ 技術力）を提示しています。今年も、産業界の皆様とともに、これらの論点に正面から向き合い、取組を進めていくことで、製造業の活力の向上と新たな価値創出につなげていきたいと考えております。



経済産業省製造産業局
素形材産業室長
大今 宏史

とりわけ、取引適正化に関しては、本年から施行される「中小受託取引適正化法（取適法）」に対応するため、適正な取引の確保を通じて素形材産業及びその取引先企業の健全な発展を目指す「素形材産業取引ガイドライン」を昨年 11 月に改訂しました。引き続き、「賃上げこそが成長戦略の要」との考え方のもと、価格転嫁・取引適正化をサプライチェーンの隅々まで浸透させ、サプライチェーン全体での競争力強化に取り組んでいきます。

構造的な人材不足についても重要な課題です。ものづくりの中核をなす素形材産業は、やりがいのある仕事です。素形材の魅力が伝わり、今後も素形材産業に関わる人材が充実していくよう、業界の皆様とともに、素形材に関する情報発信や、小中学生から高校・大学生に対するものづくり体験の機会提供等の取組を進めていきたいと考えています。また、省力化に向けた投資を促進する支援制度や関係省庁や各地域と連携したサポート体制の拡充に取り組んで参りますので、より一層の生産性の向上を目指した投資をご検討頂きたいと思います。

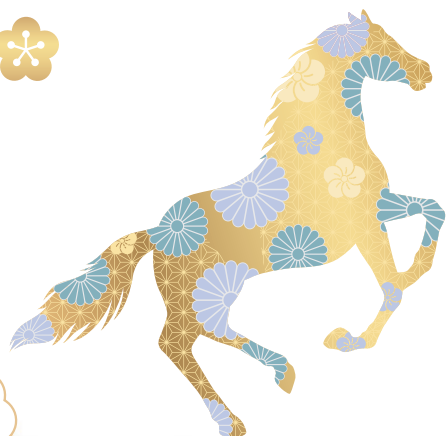
新しい製造技術への対応も欠かせない挑戦です。金属積層造形は、世界的に高付加価値製品の開発競争が激化する中で、先端製造装置・技術の獲得という観点から重要な技術であり、経済安全保障重要技

Greetings

術育成プログラムの「高度な金属積層造形システム技術の開発・実証事業」を進めているところです。この金属積層造形は、従来の鋳造・鍛造・ダイカストなどと競合するものではなく、補完し合う技術です。設計の自由度や軽量化、工程の効率化など、現場に新しい選択肢をもたらします。この技術をどう取り込み、価値に変えていくかが、今後の重要な挑戦になっていきます。そのため、金属積層造形の普及拡大・活用促進に向けて、現状を整理した上で、取り組むべき事項を検討する委員会を昨年 10 月に発足しました。具体的な提言につなげていけるよう検討を深めていきます。

また、昨年は、大阪・関西万博が開催されました。私自身も、家族とともに訪問しましたが、新しい技術や他国の文化を、目で見て触ってみるというリアルな体験の重要性を再認識する機会となりました。7 月に素形材産業室長を拝命して以降、素形材産業の実態を正しく理解するべく、多くの製造現場に訪問して意見交換をさせて頂きました。今年も可能な限り現場を訪問しますので、皆様の生の声を直接お聞きかせください。素形材産業が、自動車、産業機械、半導体、航空宇宙、医療機器など幅広い分野を支える必要不可欠な産業として、今後も持続的に発展できるよう、素形材産業室は、業界の皆様とともに歩んでまいりたいと考えております。

末筆になりますが、本年が、素形材産業、そして、素形材産業に関わる皆様の更なる発展の年となることを祈念しまして、年頭のご挨拶といたします。今年もどうぞよろしくお願い致します。



告知板

会員情報

本社移転

フクイシンター株式会社

〒 252-0307 相模原市南区文京 2 - 4 - 15

TEL/FAX 042-705-4849

粉末冶金技能検定（成形・再圧縮作業）2025 年度合格者発表

技能検定制度は、現場作業者の技能向上を目的とし、厚生労働省が公証する技能の国家検定制度で、粉末冶金は 1978 年度から実施しています。検定は焼結機械部品及び焼結含油軸受の製造に必要な技能について「成形・再圧縮作業」、「焼結作業」の選択制で毎年交互に行われます。本年度は「成形・再圧縮作業」試験を実施。

本年度の合格者は 1 級 13 名、2 級 20 名となっており、そのうち当会関係者の合格者は下記の方々でした。

なお、今回を含めた当会関係者の合格者数は、成形・再圧縮作業検定合格者 1,670 名、焼結検定合格者 862 名、合計 2,532 名。このうち 1 級合格者は 738 名、2 級合格者は 1,794 名となっております。

■ 1 級技能士

住友電工焼結合金(株)

上田 隆博氏、牧田 幹男氏、森本 司氏、稲村 孝介氏、池田 稔氏、林 裕也氏、

本安 健寛氏、宇野 克俊氏

(株)ダイヤモンド

赤澤 大介氏、木村 恭也氏、竹内 瑠威氏

■ 2 級技能士

NTN アドバンストマテリアルズ(株)

名津井 直之氏、重久 晃汰氏、真弓 拓也氏、大橋 勇太氏、木村 遼氏

住友電工焼結合金(株)

島田 崇秀氏、中川 達也氏、大月 章弘氏、小川 竜平氏、片 洸史氏

(株)ダイヤモンド

荒木 俊行氏、本間 智純氏

ポーライト(株)

坂本 和幸氏

創立 70 周年記念事業 JPMA Website リニューアル

業務委員会・広報部会は、周年行事として 2014 年に開設した [JPMA Website](#) の全面リニューアルを決定し、検討、準備を進め、この度 2025 年 12 月 17 日に旧ホームページから切替えが完了しました。今回のリニューアルは利用者の利便性向上のためレスポンスデザイン（様々な閲覧媒体でも画面サイズやレイアウトを最適化）及び公的機関、企業等に求められているウェブアクセシビリティ（高齢者や障害者を含め、誰もが Website で提供される情報や機能を支障なく利用可能とする基準）に適合（当会は適合レベル AA）させました。

また、今回の Website リニューアルに併せて CO₂ 低減とサステナブルな社会実現に向けた取り組み（企画：焼結機械部品技術委員会）、工業会の 70 年のあゆみ（企画：広報部会）、粉末冶金材料（企画：国際規格委員会）を新たに追加しました。

広報部会では今後も Website の充実を図り、粉末冶金の啓蒙を推進いたします。

【国際交流】APMA2025（中国・青島） 7th International Conference and Exhibition on Powder Metallurgy in Asia

APMA (Asian Powder Metallurgy Association) は、2008 年の「アジア粉末冶金関係団体会議」の場で発足し、2011 年に第 1 回目となる「アジア粉末冶金会議：APMA2011」を韓国・済州で開催、その後隔年で開催（2021 年、COVID-19 延期を除く）しています。第 7 回目となる APMA2025 は、中国粉末冶金学会（CPMS）、中国粉末冶金工業会（CPMA）共催により 10 月 19 日～22 日の日程で、中国・青島で開催されました。

アジア地区を中心に 16 地域から 600 名を超える参加がありました。

会議は 19 日登録、20 日は開会式、Country/Region report、Plenary report、展示会、Poster 発表、21～22 日は論文発表、Poster 発表、展示会が実施されました。



【APMA2025 会場：Shangri-La Qingdao】



【登録デスク】

主な開催概要を紹介します。

○ Opneing & Exhibition Tape Cutting

Opneing は Shangri-La Qingdao 2F、Chaina Hall 2+3 で開催され、Tian Zhiling (APMA2025 委員長) 司会のもと、Chiu-Lung Chu (APMA 会長)、Zahng Shaomig (CPMA 会長)、他 2 名から挨拶が行われ、Country/Region report、国内 Award Ceremony、Exhibition Opening Ceremony 及び Plenary Reports が行われました。



【Opening Ceremony】

○開会式、Country/Region report

開会式は主催者および関係者 4 名から挨拶、次いで Country/Region report は、5 団体から各地域の状況報告が行われました。日本からは園田会長（福田金属箔粉工業株式会社）が JPMA、JSPM 活動報告、統計、技術トピックス等の報告を行いました。



【Country report JPMA・園田会長】

○Plenary report

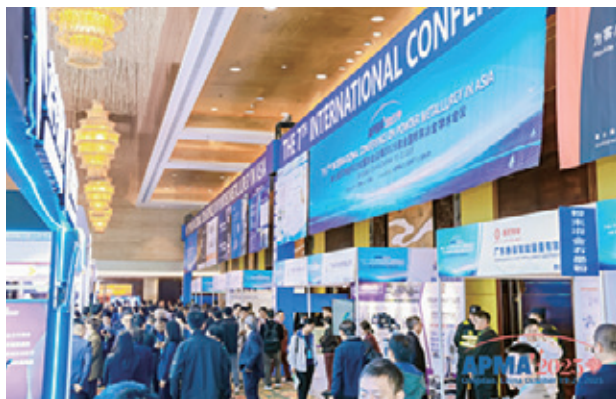
Plenary report は中国（4 件）、日本（1 件）、韓国（1 件）、ドイツ（1 件）、合計 6 件、日本からは東北大学・野村教授から「Design and fabrication of composite for laser additive manufacturing」と題した講演がありました。



【Plenary report 東北大学・野村教授】

○Exhibition

展示会は 53 社出展（74 小間）、5 社の広告スペースがあり、原料粉、評価試験機、設備、製品メーカー（プレス焼結、MIM、AM）等出展がありました。当会関係会員のポーライト株式会社、福田金属箔粉工業株式会社、ヘガネスジャパン株式会社の海外事業所（グループ会社）から出展がありました。



【展示会場：Shangri-La Qingdao 2F】

○技術発表

技術発表は、6 会場で平行開催される 6 つのカテゴリーから Invited Presentation 29 件、Keynote Speech 9 件、Oral 104 件、Poster 47 件、合計 189 件の発表が行われました。



【Oral 会場 : Shangri-La Qingdao 2F, 3F】



【Poster 会場 : Shangri-La Qingdao 2F】

Congress Guide 抜粋

	Invited	Keynote	Oral	Poster	Total
China	25	4	78	39	146
Japan	1	2	7	2	12
Taiwan	1	—	6	1	8
Korea	—	1	4	5	10
Sweden	1	1	2	—	4
Thailand	—	—	3	—	3
India	—	—	1	—	1
Germany	1	—	—	—	1
UK	—	—	1	—	1
Australia	—	1	—	—	1
Poland	—	—	1	—	1
Russia	—	—	1	—	1
Total	29	9	104	47	189

○ APMA 理事会

第 19 回となる理事会は、Chu 会長が議長となり、下記について報告・審議が行われました（当会からは園田会長、橋本業務委員長、澤山専務理事、綿貫次長、JSPM から尾崎会長、井上常務理事が出席）。

【議題及び決定事項（括弧が決定事項）】

- ① APMA 収支報告、② APMA2027 Thai の準備状況報告、③ World PM2030 Korea の準備状況報告
- ④ 次期会長選出決定（中国 :2026 ~ 2028 年、韓国 :2028 ~ 2030 年）、
- ⑤ APMA 事務局業務について（実務：会長国、財務：日本 or 中国）



【APMA 理事会 出席者】

会議スケジュール

常任理事会

2月18日 工業会会議室

常設委員会・部会

業務委員会

2月3日 工業会会議室

総務部会

2月3日 工業会会議室

広報部会

2月3日 工業会会議室

焼結機械部品技術委員会

3月18日 工業会会議室

軸受部会

2月20日 工業会会議室

プレス技術委員会

3月19日 工業会会議室

原料粉末技術委員会

1月22日 工業会会議室

射出成形粉末冶金委員会

2月19日 工業会会議室

マーケティング委員会

2月6日 工業会会議室

国際規格委員会

3月12日 Hybrid 会議

環境委員会

3月9日 工業会会議室

その他委員会

委員長連絡会

2月5日 工業会会議室

工業会各賞表彰式、創立 70 周年記念式典・祝賀会、新年賀詞交歓会

対象：招待者限定

当会は、2026 年 4 月に創立 70 周年を迎えることになりました。つきましては、毎年、新年に開催している工業会賞各賞表彰式及び新年賀詞交歓会の共催行事として、創立 70 周年記念式典・祝賀会を開催いたします。ご招待者以外のお席はお受けできませんので、ご注意下さい。

(1) 場 所：インターコンチネンタル東京ベイ（東京都港区海岸 1-16-2）

(2) 日 時：2026 年 1 月 16 日（金）

(3) スケジュール

① 14:00 ～ 14:40 工業会賞各賞表彰式

業界功労賞：1 名、工業会賞：5 件、環境賞：1 件

委員会功績賞 2 名、優良従業員表彰：10 社 13 名

② 14:50 ～ 15:30 創立 70 周年記念式典

・会長挨拶

・来賓祝辞

・海外友好団体からの祝辞
(ビデオメッセージ)

・特別表彰：3 名

・特別表彰代表者挨拶

③ 15:40 ～ 17:40

祝賀会・新年賀詞交歓会



第 2 回 MIM 講習会－中級編

対象：会員・非会員

工業会行事予定

当会・射出成形粉末冶金委員会（以下、MIM 委員会）は、金属射出成形（以下、MIM）の若手育成、啓蒙、業界活性化のため MIM 講習会を計画いたしました。本講習会は、初級編、中級編を隔年で開催するもので本年度は 2 回目となる「中級編」を対面形式で開催することといたしましたので、会員及び非会員の皆様も多数ご参加いただきますようお願いいたします。

なお、講演後、交流を兼ねて懇親会を実施いたします。

・日時：2026 年 3 月 6 日（金）13：00～17：00（懇親会：17：00～18：30）

・場所：機械振興会館（東京都港区）

・プログラム：

1. MIM の概要 浜松メタルワークス 寺田 洋文氏
2. 原料粉末 大同特殊鋼 安田 泰士氏
3. バインダ 東京都立大学 長田 稔子氏
4. 混練・造粒 日本ピストンリング 木村 正宏氏
5. 射出成形 岩機ダイカスト工業 日下 隆章氏
6. 脱バインダ 東京都立大学 長田 稔子氏
7. 焼結、後加工、検査、不適合事例 東京都立大学 長田 稔子氏

・参加費（テキスト代、懇親会費込）：

MIM 委員会委員会社：10,000 円 / 人、工業会会員：14,000 円 / 人、非会員：18,000 円 / 人

・申込方法：JPMA Website 新着情報 (<https://www.jpma.gr.jp/news/>) からお申込下さい。

※ 1 月上旬頃に同サイトから募集開始を予定

第 21 回粉末冶金交流会

対象：会員・非会員

当会・業務委員会は、会社の規模にとらわれずに会員及び非会員の情報交換の場を作り、粉末冶金関連企業の交流の機会の拡大と、お互いの研鑽を図ることを目的に本イベントを毎年開催しております。

交流会の前段となる講演は、粉末冶金の重要市場である「世界自動車産業の展望」、産官学の取り組みに関連する講演 2 件、そして環境に関する講演 1 件を企画しましたので、会員及び非会員の皆様も多数ご参加いただきますようお願いいたします。

・日時：2026 年 3 月 13 日（金）講演会：13：30～16：45、交流会：17：15～19：00（予定）

・場所：機械振興会館（東京都港区）

・プログラム：（講演のタイトルはいずれも仮題）

1. 「産業技術総合研究所の活動」 産業技術総合研究所
2. 「世界自動車産業の展望」 S&P Global
3. 「産学共創研究による自動車の潤滑材料技術への貢献」 トヨタ自動車東日本(株)・東北大学
4. 「リペア・リマニュファクチャリングとサーキュラーエコノミー」 光栄テクノシステム(株)
5. 事業紹介 平和産業(株)、(株)山田製作所

・申込方法：2 月初旬頃募集ご案内を予定

委員会の動き

常任理事会

12月3日 工業会会議室

- (1) 工業会表彰式・創立 70 周年式典・祝賀会 兼 新年賀詞交歓会段取りの確認。
- (2) 粉末冶金交流会の確認。
- (3) 第 4 回 JPMA 粉末冶金基本講座振り返り。
- (4) JPMA 主要行事日程の確認。
- (5) World PM2026 の参加方針の決定。
- (6) 常任理事忘年懇親会の確認。

常設委員会・部会

業務委員会

10月30日 工業会会議室

- (1) 2025 年度コンプライアンス委員会開催の確認。
- (2) 就活イベント PR 募集の審議。
- (3) 効率化事例発表会／原料粉・設備関係製品 PR 会の確認。
- (4) 粉末冶金交流会の審議。
- (5) 合同成果発表会の実施について審議。
- (6) 粉末冶金基本講座の振り返り。
- (7) 創立 70 周年式典・祝賀会 兼 新年賀詞交歓会の確認。
- (8) 委員会合同忘年会の確認。
- (9) 素形材団体交流委員会の説明。
- (10) 2026 年度委員会活動計画の確認。

12月4日 工業会会議室

- (1) 粉末冶金交流会の審議。
- (2) 焼結部品概要更新の審議。
- (3) 工業会表彰式・創立 70 周年式典・祝賀会 兼 新年賀詞交歓会担当の確認。
- (4) 次年度業務委員会見学会開催方針の審議。
- (5) 2026 年度委員会活動計画の審議。
- (6) 委員会合同忘年会の参加状況の報告と確認。
- (7) 主要行事日程の確認。

総務部会

10月30日 工業会会議室

- (1) 2025 年度コンプライアンス委員会開催。
- (2) 就活イベント PR 募集の審議。
- (3) 効率化事例発表会／原料粉・設備関係製品 PR 会の確認。

- (4) 粉末冶金交流会の審議。
- (5) 合同成果発表会の実施について審議。
- (6) 委員会合同忘年会の確認。
- (7) 焼結機械部品概要更新の審議。
- (8) 粉末冶金産業ビジョンの審議。
- (9) World PM 2026 参加方式の審議。
- (10) 素形材団体交流委員会の説明。
- (11) 2026 年度委員会活動計画の確認。

11月26日 工業会会議室

- (1) 粉末冶金交流会の審議。
- (2) 次年度業務委員会見学会開催方針の審議。
- (3) 2026 年度委員会活動計画の審議。
- (4) 常任理事会忘年懇親会の段取り確認。
- (5) 委員会合同忘年会の参加状況の報告と確認。
- (6) 焼結部品概要更新の審議。
- (7) World PM 2026 参加方式の審議。

広報部会

10月30日 工業会会議室

- (1) 人材育成セミナー振り返りと審議。
- (2) 粉末冶金基本講座の振り返り。
- (3) 創立 70 周年式典・祝賀会 兼 新年賀詞交歓会の確認。
- (4) 2026 年度委員会活動計画の審議。
- (5) 70 周年記念事業 ホームページリニューアルの審議。
- (6) 効率化事例発表会／原料粉・設備関係製品 PR 会の審議。

11月26日 工業会会議室

- (1) 創立 70 周年式典・祝賀会 兼 新年賀詞交歓会担当の確認。
- (2) 2026 年度部会・委員会活動計画の審議。
- (3) ホームページアクセスの確認。
- (4) 70 周年記念事業 ホームページリニューアルの審議。
- (5) 主要行事日程の確認。

焼結機械部品技術委員会

12月18日 工業会会議室

- (1) FKM ガイドライン（焼結鋼製部品の解析的強度評価）の概要確認及び Website 展開の

決定。

- (2) 粗さ標準化報告書とりまとめ内容の精査。
- (3) 冊子「焼結機械構造部品用焼結材料の特性」改訂について意見交換を実施。
- (4) 次年度活動計画の決定。

軸受部会

11 月 28 日 工業会会議室

- (1) 軸受 Website 改訂内容の最終確認を実施。
- (2) 他工法の軸受寿命に関する調査結果報告の最終確認を実施。
- (3) 軸受内径測定に関する標準化について意見交換を実施。
- (4) 次年度活動計画の決定。

プレス技術委員会

12 月 12 日 工業会会議室

- (1) トラブル事例についてプレスメーカーから紹介。
- (2) プレスの構造や機能についてプレスメーカーから紹介。
- (3) 新規 PJ 活動とりまとめ内容について意見交換を実施。
- (4) 次年度活動計画の決定。

射出成形粉末冶金委員会

11 月 17 日 工業会会議室

- (1) MIM 講習会－中級編の講演概要の紹介及び内容について精査。
- (2) MIM 講習会－中級編の講演者選定及び集客方法の承認。
- (3) 次年度活動計画の決定。

マーケティング委員会

10 月 17 日 工業会会議室

- (1) 調査報告書（個人ワーク）資料発表及び追加調査の審議。
- (2) 来期活動計画の審議。

国際規格委員会

11 月 5 日 Hybrid 会議

- (1) 2025 年 ISO/TC119 会議結果報告。
- (2) JIS/JPMA/ISO/MPIF 規格対比表の確認及び MPIF 規格 76、79 の改訂内容の確認。
- (3) 次年度活動計画の決定。

環境委員会

11 月 21 日 工業会会議室

- (1) 次年度活動計画の決定。
- (2) 環境改善事例紹介。
- (3) 安全衛生情報、災害対策について情報紹介。

秋季総会

対象：会員

11 月 13 日、東京都港区「機械振興会館」において、2025 年度秋季総会を開催しました。

○秋季総会概要 園田会長が議長として議事を進行。

- ① 2025 年度上期事業概況及び上期収支報告
澤山専務理事から、配布資料に基づき報告。
- ② 2025 年度工業会各賞発表
園田会長から、配布資料に基づき発表。

工業会賞は、業界功労賞 1 名、新製品賞・デザイン部門 1 件、新製品賞・製法開発部門 2 件、原料賞 1 件、奨励賞 1 件、委員会功績賞は 2 名、優良従業員表彰は 13 名（10 社）の方々、環境賞は 1 社が受賞されました（受賞の詳細は、本号に掲載）。

総会終了後、懇親会を開催しました。

今回の出席者数は、28 社 47 名、事務局 4 名、合計 51 名。



【総会】

第 42 回効率化事例発表会、 第 27 回原料粉・設備関係製品 PR 会

対象：会員

11月20日、「第42回効率化事例発表会、第27回原料粉・設備関係製品PR会」をオンラインで開催しました。参加は、16社から170名（関係者含む）と多数の聴講があり、且つ活発な質疑応答が交わされました。

冒頭の園田会長の開会挨拶に続き、司会は前半を毛利焼結機械部品技術委員長、後半は新保原料粉末技術委員長が担当し、効率化事例4件、PR発表4件の合計8件の発表が行われました。

発表終了後、新保委員長から「最近、様々な分野でAI技術の台頭を見聞きし、有用なツールとして使いこなすことが重要だと考えますが、アイデアや肝となるコンセプトまでAI任せになりそうな風潮に一技術者として正直不安も感じております。その様な中、本効率化事例を拝聴し、現場に根差した着眼点や工夫に感服しました。また、原料粉末のPRは、まだまだ開発のネタはいろいろあると勇気付けられもしました。本発表のひとつひとつが皆様の次の改善活動、開発のヒントになれば幸いです。」との総評をいただきました。

なお、初回開催（1980年度）から今回までに効率化事例発表会では216件、原料粉・設備関係製品PR会では原料粉関係73件、設備関係10件、累計で299件の発表が行われました。

会員各社の貴重なノウハウや実体験を含む事例発表は、工業会でなければ実現できないイベントの一つです。会員の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



園田会長

《 前半司会 》
毛利 焼結機械部品技術委員長《 後半司会 》
新保 原料粉末技術委員長

発 表 者

効率化

ポーライト株式会社
麦倉 龍也 氏・善明 洋希 氏

原料 PR

福田金属箔粉工業株式会社
益岡 佐千子 氏

効率化

株式会社ファインシンター
大森 裕介 氏

原料 PR

株式会社神戸製鋼所
山田 宰 氏

効率化

株式会社ダイヤメット
吉松 真 氏

原料 PR

JFEスチール株式会社
高取 尚史 氏

効率化

住友電工焼結合金株式会社
益山 謙太 氏

原料 PR

ヘガネスジャパン株式会社
山内 智英 氏

2025 年度工業会賞

工業会賞は、粉末冶金の技術向上、普及・啓蒙を一層図るため 1979 年度に創設されたもので、2025 年度で 47 回目となります。

表彰の種類は、業界功労賞、新製品賞（デザイン部門、材質部門、製法開発部門）、原料賞、設備開発賞に区分されており、2003 年度から、新製品賞、原料賞、設備開発賞の中から最も優れた案件に「工業会大賞」を授与しています。また、上記賞以外に奨励賞が設定されています。

受賞製品の概要は次のとおりです（新製品賞・材質部門、設備開発賞は応募なし）。

業界功労賞

粉末冶金業界の基盤強化に対する貢献



植 月 義 夫 氏

（元日本粉末冶金工業会）

2019 年～ 2025 年 専務理事

新製品賞・デザイン部門

高気密熱処理材を採用した EV 向け冷却モジュール用焼結平歯車

株式会社ダイヤメット

本製品は、BEV 向け冷却モジュールの流路切替え用バルブに搭載される平歯車です。BEV において冷却機構が複雑化している中で、このモジュールは冷却機能を一括で管理できるため、今後の需要増加が見込まれています。当初は樹脂製歯車の採用が検討されていましたが、強度や耐摩耗性に課題があり、焼結歯車が採用されることとなりました。

焼結化にあたり、強度及び耐摩耗性を、材質 Fe-Cu-Ni-Mo-C 系、密度 $7.0\text{g}/\text{cm}^3$ 以上とし、浸炭焼入れ処理を施すことで要求仕様を満足しました。また、当該製品の一部分がユニット外部に露出することから、焼結部材の気孔がユニットの気密性に影響を及ぼす可能性が懸念されたため、気密性、コスト、生産性からスチーム処理を採用しました。

浸炭焼入れとスチーム処理を組み合わせた熱処理工程は、類例のない設計のため、浸炭焼入れによる強度向上効果を損なうことなく、気密性や機械的特性を確保するためのスチーム処理条件を見出すことにより実現しました。また、スチーム処理による外観不良（汚れ）の対策や相手部品の損傷防止策も講じることで性能、品質、コストの顧客要求レベルをクリアし、量産化に成功しました。

評価のポイント

難易度の高い形状付与、気密性、強度及び硬さの要求品質を焼入れ処理、スチーム処理、特殊洗浄の組み合わせとその条件選定にて実現している点が評価されました。BEV の冷却モジュールは今後の需要拡大が見込まれ、類似製品への技術展開や、他用途でも気密性を有する高強度部材品の市場拡大が期待されます。



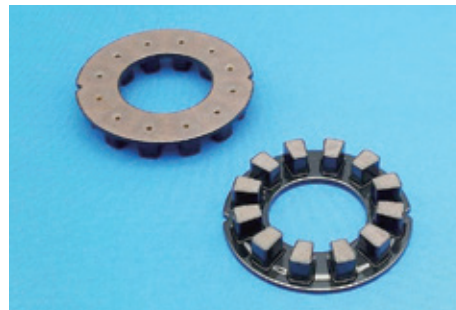
新製品賞・製法開発部門

モータの高性能化に貢献する薄肉・高絶縁耐圧塗装付き圧粉磁心の開発

住友電気工業株式会社

本製法は、モータ用の薄肉・高絶縁耐圧を有し、且つ薄く均一な絶縁塗装による低コストの圧粉磁心を可能とした製法技術です。

モータは、電気エネルギーを動力に高効率に変換可能な機器であり、需要増に伴い様々なアプリケーションへの搭載が進んでおり、モータの高効率化と小型／軽量化に向けた研究開発が多くなされています。本開発は、モータ用鉄心材料として、圧粉磁心の特長が活かせるアキシシャルギャップモータに適用することで現在主流の電磁鋼板を用いたラジアルギャップモータから置き換え、新たな販路拡大に実現しました。本製品のコアの機能は、コイルで発生した磁界を増幅し、モータに高い回転力を発生させる共に、コイルの熱を効率的に放散する放熱経路の役割を果たす機能であり、これらの要求事項を満たすために、従来の絶縁部材（絶縁紙、樹脂ボビン等）の肉厚よりも圧倒的に薄い厚さと高い絶縁耐圧を有し、コイルの放熱性を高めるとともにコイルの占積率の確保、圧粉磁心をモータハウジングケースに機械的に固定及び、安価な塗装方法を実現可能とする製法として、絶縁被覆された軟磁性粉末を加圧成形し、残留歪の除去を目的とした熱処理を施した上でネジ（M2）固定用の穴あけと従来の絶縁塗装厚 200 ～ 300 μm に対し、反応・析出型の絶縁塗料を用いることにより 40 ～ 50 μm と薄く均一な膜厚を可能とする絶縁塗装を行うプロセスの開発に成功しました。



評価のポイント

圧粉磁心表面への絶縁樹脂原料液の開発、塗布方法の最適化、磁心との化学反応を利用した被膜の密着薄膜化により 3 倍の絶縁耐圧とコスト 1/10 を実現しました。また機械的強度も確保されており、今後のアキシシャルギャップモータの普及拡大が期待されます。

焼結接合キャリア省人化ラインの開発

住友電気工業株式会社

本製法は、焼結接合キャリアの成形～出荷までの省人化ラインです。

焼結接合キャリアは、複数の成形体（ブリッジとスプライン）を組付ける為、広い成形体仕掛置き場の確保や、人の手による成形体組立・ろう材投入工程、接合保証、部品間をまたいだ寸法保証など、一般焼結部品より製造工程、検査工程が多く、出荷までのリードタイムが長くなり、製造コスト高となる課題がありました。

本生産ラインの開発のポイントは、省人化によるコスト競争力の向上だけではなく、仕掛量の低減、検査工程の連結化及び、CO₂ 排出量低減の為生産エネルギーコストの低減にも取り組みました。生産ラインは複数の製品を流動させる為、ライン構成として、成形～焼結までの「製造ライン」と熱処理と品質保証をする「保証ライン」の二つのライン構成に分け開発しました。「製造ライン」は、仕掛量の低減を目的に成形～組立～ろう材投入～焼結まで連続で同期生産を可能としました。「保障ライン」は、寸法、焼結接合、高周波熱処理（インライン化）、



磁気探傷、外観保証をベルトコンベアで繋いだ 1 個流しライン構成とし品質を確保しました。この二つのラインを連結化することにより、成形～出荷までのリードタイムを従来の工法対比 90% の短縮を実現できました。また、製造コストも組立自動化や搬送自動化により従来の工法対比約 30% 原価低減を実現しました。

評価のポイント

焼結キャリアは長年採用されており、生産方法は確立されているが、素材製作と熱処理・検査工程を一貫ラインにすることにより、仕掛低減、リードタイム短縮、品質確保及びコスト低減 30% を実現し、月産 7 万個で量産していることは画期的であり、今後の焼結キャリアの市場拡大が見込まれます。

原料賞

高強度焼結材の製造を実現する Ni フリー低合金鋼粉

JFE スチール株式会社

本原料は、高強度焼結材の製造を実現する Ni フリー低合金鋼粉です。従来の Ni 系部分拡散合金鋼粉 (Fe-4Ni-0.5Mo-1.5Cu、以下 4Ni 粉) は、4% の Ni 添加によって気孔周辺に生成される Ni リッチオーステナイト相が、部品に深い負荷が付与された際の気孔周りでの応力集中を抑制する効果を担い、機械特性向上へ寄与していましたが、近年 Ni 粉の需要拡大及び価格急騰しており供給が不安定化しているため、Ni 粉を使用せずに、同等の機械特性が得られる合金鋼粉の開発が望まれていました。

開発合金鋼粉は、焼結促進による焼結気孔微細化という新機軸をもとに粒子設計をおこない、合金鋼粉の粒子円形度の低下による気孔の微細化及び添加剤 Cu 粉の微粒化による焼結体密度の低下を抑制しました。この結果、従来の 4Ni 粉と同等以上の機械的特性を実現し、且つ従来の高温焼結 (1250℃) から通常焼結 (1130℃) で製造が可能になったことにより、CO₂ 排出量削減にも寄与しています。

評価のポイント

既存の 4Ni 系部分拡散合金鋼粉に対し、Fe-Mo 系合金鋼粉に粒子円形度の調整及び Cu 粉の微細化により、Ni フリーでも同等以上の強度・硬さ・疲労強度を達成し、且つ 20% のコスト低減と環境負荷低減を実現した点が評価されました。環境、品質及びコストを兼ね備えた合金鋼粉のため、今後の市場拡大が見込まれます。



奨励賞

カーエアコン用コンプレッサー容量制御弁 (ECV) ガイドブッシュの焼結化

ポーライト株式会社

本製品は、カーエアコン用コンプレッサー容量制御弁 (ECV) ガイドブッシュです。カーエアコン用の可変容量型のコンプレッサーは、吹き出し温度の変動を押さえ、コンプレッサーの負荷を低減するために、容量制御弁 (ECV) が搭載されています。この ECV には、可動弁をスライド方向に支持するための真鍮製の切削ブッシュが使用されていましたが、摺動特性の向上とコスト低減の課題より、焼結化への変更が検討されました。

焼結化にあたり形状は、生産上の問題点を考慮しつつ冷媒の流路面積を確保した外形形状としました。



材料選定は、含浸されている潤滑油が冷媒によって置換されてしまうため、潤滑油を含浸せず、無含油でも使用可能な固体潤滑剤（黒鉛量 2.0 ～ 3.0 mass%）を分散させた Cu-Sn-P-C 系材料を採用しました。この結果、摺動特性が向上し、従来の切削加工品から 50% 以上のコスト低減を実現しました。

評価のポイント

真鍮切削品から、固体潤滑剤（黒鉛）を分散させた Cu-Sn-P-C 系材料の焼結への置き換えにより、50% コスト低減が実現されていること、368 万個 / 年と生産量が多く、今後、容量制御弁（ECV）の拡大に伴い焼結ブッシュの採用拡大が期待できる点が評価されました。

2025 年度委員会功績賞



加 藤 健 一 氏

株式会社ダイヤモンド

品質保証部品質管理課課長代理

2016 年～ 2025 年

焼結機械部品技術委員会委員長・委員、軸受部
会委員、原料粉末技術委員会委員、国際規格委
員会委員、工業会賞選考委員会委員、他



山 本 剛 司 氏

元株式会社ファインシンター

2004 年～ 2012 年、2023 年～ 2025 年

業務委員会委員、総務部会委員、広報部会委員、
焼結機械部品技術委員会委員、射出成形粉末冶
金委員会委員、工業会賞選考委員会委員、他

2025 年度優良従業員表彰受賞者



NTNアドバンストマテリアルズ株式会社

三 林 拓 夫 氏



住友電工焼結合金株式会社

石 井 勝 利 氏



住友電工焼結合金株式会社

住 本 健 一 氏



株式会社ダイヤメット
高 杉 雅 人 氏



株式会社ダイヤメット
金 子 和 浩 氏



日本ピストンリング株式会社
長 屋 和 則 氏



株式会社ファインシンター
岡 部 忠 士 氏



株式会社ファインシンター
横 手 規 至 氏



ポーライト株式会社
青 木 勝 弘 氏



株式会社神戸製鋼所
谷 井 尚 之 氏



JFE スチール株式会社
西 村 洋 介 氏



大同特殊鋼株式会社
浅 井 辰 也 氏



福田金属箔粉工業株式会社
清 水 利 勝 氏

2025 年度環境賞

日本粉末冶金工業会は「環境自主行動計画」に基づき、製品製造会員を対象に毎年フォローアップ調査を実施し、業界として「CO₂」及び「廃棄物」の削減に取り組んでいます。

今後、環境活動の推進が重要な位置付けとなっていくことから、削減活動の奨励と業界の環境への取り組みを啓蒙することを目的として環境自主行動計画フォローアップ調査結果（今回は 2023 年度調査）から、「CO₂ 排出量削減部門」、「廃棄物総排出量削減部門」の 2 部門において優秀な実績を残された会員企業に対し、2016 年より環境賞を授与しています。なお、今回は「CO₂ 排出量削減部門」の該当はありませんでした。

◇廃棄物総排出量削減部門（2024 年度）

受賞事業所名：三井金属ダイカスト株式会社

所在地：岐阜県飛騨市

受賞事業所紹介：

神岡工場（旧神岡部品工業）は 1973 年より操業、粉末冶金事業は翌年より生産を開始し、これまで自動車、産業機械向けなどに多くの製品を製造してきました。弊社は「価値ある商品によって社会に貢献し社業の永続的発展成長を期す」の基本理念を元に生産活動に取り組んでおり三井金属グループの素材加工メーカーの一員として幅広い知見と長きに渡る経験によりこれからも世の中に必要とされ続ける企業を目指します。



廃棄物総排出量削減は会社としての重点活動の取り組みの一つとしており、各部署が主体となり環境事故防止、使用原材料低減などに取り組んでいます。2023 年 10 月からは電子マニフェスト化にも移行しました。今回の環境賞受賞を契機に更にブラッシュアップした廃棄物削減に取り組んで行くと共にカーボンニュートラル ロードマップを軸とした CO₂ 低減にも取り組んで行きたいと思えます。

素形材産業貢献表彰

11 月 7 日に機械振興会館において、「第 31 回素形材月間記念式典」が挙行されました。式典では、令和 7 年度素形材産業貢献表彰（素形材産業技術賞、素形材産業経営賞、素形材産業優良従業員表彰）が行われ、当会関係会員が受賞されました。

○第 41 回素形材産業技術賞・一般財団法人素形材センター会長賞

住友電工焼結合金株式会社

「超薄型家電用モータの実現に貢献する粉末プレスによる両ツバ付き鉄心の一体成形技術の開発」

○第 2 回素形材産業経営賞・一般財団法人素形材センター会長賞

伊 井 浩 氏（株式会社ダイヤモンド） ※当会常任理事

○第 63 回素形材産業優良従業員表彰

山 本 達 司 氏（住友電工焼結合金株式会社）

工業会統計

統計情報

年 月	粉末冶金製品生産金額 (百万円)							原料粉出荷量 (トン)	
	軸受合金	機械部品	摩擦材料	電気接点	集電材料	その他	合 計	鉄 粉	銅 粉
2020 年度	1,179	7,854	432	1	133	334	9,934	7,107	326
2021 〃	1,415	8,904	635	3	132	453	11,543	8,070	374
2022 〃	1,252	8,247	676	2	149	453	10,779	7,193	302
2023 〃	1,342	8,553	617	2	140	449	11,103	6,346	289
2024 〃	1,285	8,027	749	3	196	468	10,729	6,069	284
前年度比%	96	94	121	160	140	104	97	96	98
2024 年 10月	1,335	8,609	821	2	229	527	11,523	5,941	328
11月	1,348	8,218	774	1	177	482	11,000	6,444	295
12月	1,125	7,849	687	2	192	487	10,341	6,455	304
2025 年 1月	1,136	7,787	737	2	218	467	10,347	6,088	245
2月	1,185	7,870	760	1	204	503	10,522	5,822	245
3月	1,264	8,615	781	6	181	491	11,338	6,006	317
4月	1,265	7,662	734	1	210	493	10,365	5,318	239
5月	1,165	7,676	749	1	188	444	10,224	6,045	205
6月	1,372	8,320	775	0	182	509	11,159	7,170	237
7月	1,557	9,096	806	0	202	523	12,184	6,440	267
8月	1,262	6,652	605	4	180	380	9,084	4,599	204
9月	1,546	8,700	739	3	208	527	11,722	5,864	238
10月	1,452	8,967	763	0	234	545	11,961	6,549	234
前年同月比%	109	103	93	14	102	106	103	110	100

(注 1) 「その他」は磁性材料硬質も含む。

(注 2) 生産金額は消費税を含む。

(注 3) 前年比・前年同月比は同一企業数で計算。

(注 4) 前年度比、前年同月比は消費税抜きの金額で比較。

謹賀新年

岩機ダイカスト工業株式会社

代表取締役社長 齋藤 明彦

所在地：宮城県亘理郡山元町鷺足字山崎 51-2

URL：www.iwakidc.co.jp/

NTN アドバンストマテリアルズ株式会社

代表取締役社長 武田 毅

所在地：愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田字勝田場 101

URL：www.ntn-amc.com/

大阪冶金興業株式会社

代表取締役 寺内 俊太郎

所在地：大阪市東淀川区瑞光 4-4-28

URL：www.osakayakin.co.jp/

株式会社キャストム

代表取締役 戸田 拓夫

所在地：広島県福山市御幸町中津原 1808-1

URL：www.castem.co.jp

住友電気工業株式会社

焼結製品事業部長 井上 慎太郎

所在地：兵庫県伊丹市昆陽北 1-1-1

URL：sumitomelectric.com/jp/products/sintering

株式会社ダイヤモンド

代表取締役社長 伊井 浩

所在地：新潟県新潟市東区小金町 3-1-1

URL：www.diamet.co.jp/

新年のご挨拶 広告

謹賀新年

帝国カーボン工業株式会社

代表取締役社長 畔 津 健太郎

所在地：東京都千代田区神田多町 2-8

URL：www.teikoku-c.co.jp

ナパック株式会社

代表取締役社長 半 田 伸 宏

所在地：長野県駒ヶ根市赤穂 14-1823

URL：www.napac.co.jp

日本ピストンリング株式会社

執行役員 蓮 見 良 介

所在地：埼玉県さいたま市中央区本町東 5-12-10

URL：www.npr.co.jp

株式会社ファインシンター

代表取締役社長 山 口 登士也

所在地：愛知県春日井市明知町西之洞 1189-11

URL：www.fine-sinter.com

フワイシンター株式会社

代表取締役 赤 沼 健太郎

所在地：福島県須賀川市虹の台 27-1

平和産業株式会社

代表取締役 大 竹 徹

所在地：埼玉県さいたま市南区文蔵 4-21-11

URL：www.peace-lon.co.jp/

ポーライト株式会社

代表取締役社長 菊 池 正 史

所在地：埼玉県北足立郡伊奈町小室 4852-1

URL：www.porite.co.jp/

三井金属ダイカスト株式会社

代表取締役社長 陣 内 誠 司

所在地：山梨県韮崎市大草町下條西割 1200

URL：www.mitsui-kinzoku.co.jp/project/diecast

エプソンアトミックス株式会社

代表取締役社長 沼 沢 亮

所在地：青森県八戸市大字河原本字海岸 4-44

URL：www.atmix.co.jp/

株式会社神戸製鋼所

素形材事業部門 鉄粉ユニット長 二 村 敏

所在地：東京都品川区北品川 5-9-12

URL：www.kobelco.co.jp/

JFE スチール株式会社

鉄粉セクター 副セクター長 宇 波 繁

所在地：東京都千代田区内幸町 2-2-3

URL：www.jfe-steel.co.jp

大同特殊鋼株式会社

常務執行役員 永 谷 哲 洋

所在地：東京都港区港南 1-6-35

URL：www.daido.co.jp

謹賀新年

DOWA エレクトロニクス株式会社

機能材料事業部長 西 口 兼 史

所在地：千代田区外神田 4-14-1 秋葉原 UDX ビル
URL：www.dowa-electronics.co.jp**DOWA IP クリエイション株式会社**

代表取締役社長 宮 崎 達 郎

所在地：岡山県岡山市南区築港栄町 7
URL：www.dowa-ip.co.jp/**日本アトマイズ加工株式会社**

代表取締役社長 遠 藤 誠 二

所在地：千葉県野田市西三ケ尾 87-16
URL：www.atomize.co.jp**福田金属箔粉工業株式会社**

代表取締役会長 園 田 修 三

代表取締役社長 福 田 宏 樹

所在地：京都市山科区西野山中臣町 20
URL：www.fukuda-kyoto.co.jp**ヘガネスジャパン株式会社**

代表取締役社長 片 野 唱 栄

所在地：東京都千代田区大手町 2-6-4
TOKYO TORCH 常盤橋タワー 915 区
URL：www.hoganas.com/ja/**三菱製鋼株式会社**執行役員 深 澤 秀 一
素形材事業部長所在地：東京都中央区月島 4-16-13
URL：www.mitsubishisteel.co.jp/**コータキ精機株式会社**

代表取締役社長 小 黒 二 郎

所在地：静岡県駿東郡長泉町下長窪 1032
URL：www.kohtaki.co.jp**太陽金網株式会社**

代表取締役社長 平 井 裕 晃

所在地：大阪市中央区南船場 1-11-7
URL：www.twc-net.co.jp/**株式会社タナカカメ**

代表取締役社長 牧 野 耕 二

所在地：大阪府枚方市招提田近 1-3
URL：www.came.co.jp**三菱マテリアルテクノ株式会社**取締役 松 島 健 文
営業部門長所在地：東京都台東区台東 1-30-7
秋葉原アイマークビル
URL：www.mmtec.co.jp/**株式会社ヤマザキ電機**

代表取締役 吉 田 和 夫

所在地：埼玉県坂戸市小山 123
URL：www.yamazaki-denki.co.jp**小林工業株式会社**

代表取締役社長 佐 藤 正 樹

所在地：秋田県由利本荘市石脇字赤ハゲ 1-372
URL：www.kobayashi-akita.co.jp

謹賀新年

新年のご挨拶

株式会社アドテックエンジニアリング

代表取締役社長 竹田 幸一郎

所在地：東京都港区三田 3-5-19

住友不動産東京三田ガーデンタワー 31 階

URL：www.adtec.com/

Ipsen 株式会社

代表取締役 星野 雅志

所在地：大阪市鶴見区安田 2-3-2

URL：www.ipsenglobal.com

大洋商事株式会社

代表取締役社長 北代 広明

所在地：東京都中央区新富 2-15-5

URL：www.taiyoshoji.co.jp

株式会社中央発明研究所

代表取締役社長 曾我 夏人

所在地：東京都西多摩郡瑞穂町二本木 539

URL：www.chuhatsu.co.jp/

東邦チタニウム株式会社

所在地：神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-3-5

URL：www.toho-titanium.co.jp

株式会社ニューメタルス・エンド・ケミカルス・コーポレーション

代表取締役社長 植元 淑雄

所在地：東京都中央区京橋 1-2-5 京橋 TD ビル

URL：www.newmetals.co.jp/

株式会社モック

代表取締役 大塚 政義

所在地：大阪府寝屋川市仁和寺本町 3-3-1

URL：www.mokc.jp

一般社団法人粉体粉末冶金協会

会長 尾崎 由紀子

所在地：京都市左京区下鴨森本町 15

生産開発科学研究所内

URL：www.jspm.or.jp/

日本粉末冶金工業会

専務理事 澤山 哲也

所在地：東京都台東区台東 3-42-7

松田商事ビル 6 階

URL：www.jpma.gr.jp



今を知る。未来の力になる。

全国すべての事業所・企業が対象です。

経済センサス 活動調査

経済の
国勢調査



令和 8 年
6 月 1 日

4 月～5 月にかけて
調査票をお届けします。



回答はインターネットがおすすめです。



※この調査は統計法に基づく統計調査で、調査に回答する義務があります。ご回答いただいた内容は統計作成の目的以外(税の資料など)には、絶対に使用しません。

<https://www.e-census2026.go.jp/>

経済センサス2026

検索



総務省・経済産業省・都道府県・市区町村からのお知らせです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

経済センサス-活動調査の結果は、「持続可能な開発目標(SDGs)」達成に向けた日本の取組の現状を確認するためにも活用されます。